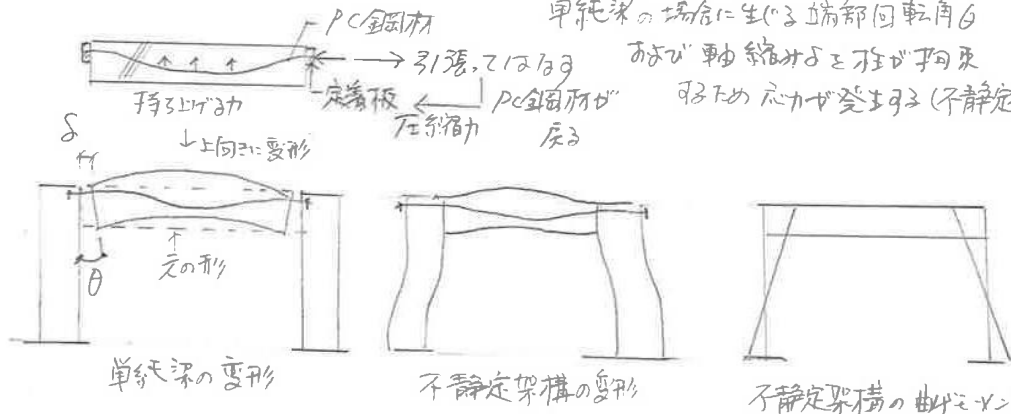


平成27年 NO22 ポストレストコンクリート構造

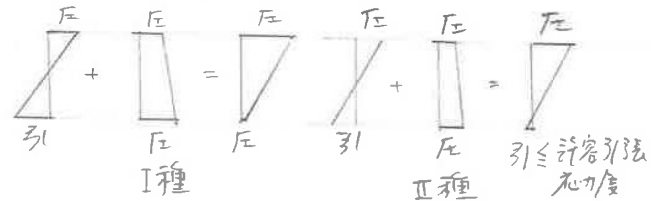
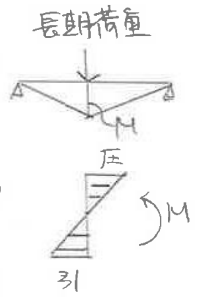
1. ポストレストによる不静定力 → ポストレストによる曲げ変形、軸変形による不静定=応力を考慮 (たわみがたつた)
2. ポストレストコンクリート構造の種類 → 長期荷重時に梁断面に生じる引張応力の状態に応じてⅠ種、Ⅱ種、Ⅲ種に分類される
3. ポストレストコンクリート構造のひび割れ → 引張力によるひび割れが発生しにくく耐久性はコンクリート構造より高い
4. グラウトを注入しておくことでより緊張材 → 防錆材により被覆された緊張材を使用する場合、シス内にグラウトを注入しておく

○ ポストレストによる不静定力 → 不静定梁構にポストレストを導入すると単純梁の場合に生じる端部回転角および軸縮みなどを抑え得るため応力が増える(不静定応力)



○ ポストレストコンクリート構造の種類

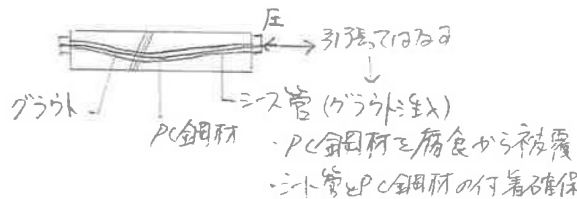
- Ⅰ種: 長期荷重時に断面に引張応力が生じる
- Ⅱ種: 長期荷重時に断面に生じる引張応力がコンクリートの許容引張応力以下
- Ⅲ種: 長期荷重時に断面に生じる引張応力がコンクリートの許容引張応力を超えて曲げひび割れが発生すが、ひび割れ幅を目標値以下にする



○ ポストレストコンクリート構造のひび割れ

ポストレストの導入により、断面に生じる引張応力を制御し、ひび割れが生じにくいため、耐久性はコンクリート造よりも高い。

○ グラウトを注入しておくことでより緊張材



プレキャストスラブ (グラウト作業が省けるのでポイントタイプが施工が簡単)

